

遊び

一般的に知能が高い動物ほどよく遊ぶと言われます。仔犬の成長のため、成犬の心身の健康のためにも遊びは欠かせないものです。

犬の祖先は、仔犬の時期に遊びを通じて獲物を捕らえるトレーニングをし、成犬になれば実際に自分の力で獲物を捕らえて食糧にして生活していました。しかし現在の家庭犬にはその必要はなく、食餌はだまっけていても飼い主が与えてくれるため、狩りの本能とそのエネルギーだけが残ってしまっている状態なのです。そしてそれがうまく発散できないと、吠える、物を壊すといった問題行動の原因になってしまいます。

遊びを通じて若くて元気な犬の、有り余ったエネルギーを発散させてあげましょう。また、あまり遊ぶことに興味なくなった老犬では、放っておいても問題をおこす事はありませんが、逆に少しでも活発に生活するために、いわば呆け予防のためにも遊びを続ける事は大切です。

犬の遊びは基本的には獲物を追いかける、捕らえる、噛むといった犬本来の狩猟本能を満たすものです。特に小さくてすばやく動く物には敏感に反応して、追いかけたり捕まえようとします。ボールやダンベル型のおもちゃを投げて追いかけさせたり、持ってこいをさせるのはとてもよい運動になります。

また物をかじる事も大好きですから、大切な物を噛み壊される前に、噛むためのおもちゃを与えましょう。ペットショップにいろいろなおもちゃが売られていますし、自分で工夫してつくることもできます。運動不足解消のためにも好みのおもちゃを用意してあげましょう。

中には狩猟本能がほとんどない犬や年をとって遊びに興味を示さなくなる犬もいます。そんな犬でもほとんどの場合、食べることには興味があるはずで、食べ物を目の前に出して与えるのではなく、どこかに隠して探し出すというようなゲームをしても良いでしょう。

犬のおもちゃ

犬用のさまざまなおもちゃが市販されています。安全性は考慮されているものの、かたまりのまま飲み込んでしまうと、消化管に詰まってしまうことも

あります。簡単に飲み込めるようなサイズのものには避けましょう。また大きな物も、噛みちぎって飲み込んでしまわないよう、注意してください。

ナイラボーン：

骨の形をした噛むためのおもちゃ。あまり興味を示さないようなら表面をヤスリなどで少し傷つけて少量のバターなどをぬってあげると喜びます。

コング：

ゴム製の噛むおもちゃ。投げると不規則に弾むので、犬が喜んで追いかけます。コングの中に犬の好物を詰め込んでおくことでそれを取ろうとして一生懸命になり、お留守番の時の暇つぶしにもなります。

コットンロープ：

噛むと同時に機械的に歯垢を減らす効果もあります。

ぬいぐるみ：

兄弟のようにじゃれたり、獲物に見立てて飛びついたり、眠くなると枕代わりにもなったりと子犬のよいおもちゃです。

キューキューボール：

投げて追いかけさせたり、持ってこいをさせるのに役立ちます。噛むとキューキュー音がして犬の本能を刺激します。



犬用ねこじゃらし：

大型の猫じゃらし。釣り竿のようなものの先にぬいぐるみを付けたもので犬を走って追いかけて、飛びつき、捕まえるという犬の狩猟本能を満たすおも

ちゃです。

バスターキューブ：

四角い箱型の中にフードを入れて、転がすと少しづつ出る仕組みになっています。犬が頭を使って、フードを食べようと一生懸命になります。お留守番の時の、暇つぶしにもなるおもちゃです。

木製ダンベル：

木で出来たダンベルです。噛むおもちゃとして与えたり、投げて持ってこいをさせるのに使います。

ゲーム

基本的な服従訓練（おすわり、伏せ、待て、付け、来い）をしておけば飼い主と一緒にさまざまなゲームを楽しむ事ができます。ゲームはきちんとしつけをした上で、安全な場所で、他人の迷惑にならないよう配慮して行いましょう。

最もシンプルな「持ってこい」は、簡単に出来てとても良い運動になります。持ってこいが上手に出来るようになったら、新聞を取ってきてもらうようなお手伝いもしてもらえます。

犬にお座り待てをさせておいて、飼い主が隠れて名前を呼んで見つけさせる**かくれんぼ**は、飼い主も楽しめて、犬と飼い主との絆を強める効果もあります。

犬を連れた友達が集まれば**イス取りゲーム**も楽しめます。イスの回りを飼い主と犬が回り、音楽が止まると飼い主は一斉に犬にお座り待てをさせてイスにすわります。途中で犬が動いたらその犬の飼い主はイスに座れません。犬のトレーニングを強化する効果もあります。

さらに活動的な犬と飼い主のペアーなら、アジリティやフライボール、フリスビーなどのような競技を楽しんでみてはいかがでしょうか。

犬同士で遊ぶ

犬にとってどんなおもちゃより良い刺激となるのは他の犬との遊びです。犬は私達人間とは異なった方法でコミュニケーションしますので、お互いに言

葉の通じる犬同士が一番の遊び相手となります。

兄弟と暮らしている時期、子犬は兄弟同士で、相手を狩りの対象に見立てて追いかけたり、じゃれて噛みついたり、本当によく遊びます。

本来ならこの子犬の時期に、母犬や兄弟と遊ぶことで、狩りのトレーニングだけでなく、犬同士のつ



き合い方を学びます。

しかし犬でありながら犬とのコミュニケーションが出来ない犬がたくさんいます。おそらく幼い時期に母親や兄弟から引き離されたために、犬同士のつき合い方を学ぶ機会が十分与えられず、その後も犬と遊ぶ事なく過ごしてしまったのでしょうか。

犬でありながら犬を見て異常に恐がったり、逆に攻撃的になったり、興味はあるけれども、どのようにコミュニケーションしてよいかわからず、ワンワン吠えてみたりといった具合です。

出来るだけ幼い時期から他のワンちゃんとの交流を持たせてあげる事をお勧めします。（社会化の項をご参考に。）社会化期を過ぎてしまっても時間をかければ犬のお友達を作る事は可能です。グルプレッスンをしている犬のしつけ教室に通ったり、公園などでフレンドリーなワンちゃんを見つけ遊ばせてあげましょう。

このペーパーは株ベツト・ベツト社が提供する

PET LOVERS' FORUM (<http://www.pet-vet.or.jp>)で、もみの木動物病院 村田香織先生が提供されたものを一部改編して作成しております。

イラスト著作：くぼじょうこ

このペーパーは下記当院のインターネットホームページで24時間無料で取り出せます。また、ホームページには他にも様々な情報が掲載してありますので、ぜひご覧ください。



Copyright (C) 2001 Tatsuya Fukuyama DVM, AFP IKI ISLAND VETERINARY CLINIC.

Tel 0920-47-6767 Fax 0920-47-0350 e-mail: foffice@bronze.ocn.ne.jp

<http://www.ikikoku.com/pet.html>